

PassiOn

Vol.16

5月号(2026)

特集

第32回日本義肢装具士協会学術大会(札幌市)

- 2026年度 研修セミナー
- 脳卒中下肢装具 専門技能コース 実技セミナー
- 生涯学習 標準カリキュラム

臨床から学び、 未来を築く

～義肢装具のエビデンス構築と展望～



ご注意 ハイブリッド形式(対面+Web)になりました

日程 2026年 7月4日(土)・5日(日)

会場 札幌市教育文化会館 札幌市中央区北1条西13丁目

大会長 早川 康之 (北海道科学大学保健医療学部義肢装具学科)

大会プログラム

第32回日本義肢装具士協会学術大会（札幌）

特別講演

義肢装具とEBM

演者 向野 雅彦 先生（北海道大学病院リハビリテーション科）

教育講演

教育講演Ⅰ

ウィンタースポーツにおける装具の役割

演者 渡邊 耕太 先生（札幌医科大学医学部スポーツ医学講座
札幌医科大学附属病院 スポーツ医学センター）

演者 井野 拓実 先生（北海道科学大学保健医療学部）

教育講演Ⅱ

「能動義手適合検査マニュアル」の活用

演者 高橋 功次 先生（有限会社タカハシ補装具サービス）

教育講演Ⅲ

義肢装具士に求められるリハビリテーション先端医療機器の知識と技術

演者 浅見 豊子 先生（佐賀大学医学部
医療法人安寿会田中病院）

指定講演

指定講演Ⅰ

義肢装具士養成教育の現状

演者 本田 智裕 先生（熊本総合医療リハビリテーション学院）

指定講演Ⅱ

義肢装具士に求められる災害リハビリテーション支援

演者 坂井 一浩 先生（人間総合科学大学保健医療学部）

演者 小川 大祐 先生（東名ブレース株式会社）

実技セミナー

実技セミナーⅠ

前腕切断の筋電義手用採型と筋電分離

演者 八幡 済彦 先生 / 和田 真生 先生（オットーボック・ジャパン株式会社）

実技セミナーⅡ

車椅子シーティングの実技セミナー（基礎編）

演者 北川 新二 先生（有限会社木村義肢工作研究所）

実技セミナーⅢ

脳卒中片麻痺者に対する装具設計のための臨床推論 ～実際の片麻痺歩行を観察しながら演習します！～

演者 昆 恵介 先生（北海道科学大学保健医療学部）

実技セミナーⅣ

人とテクノロジーでつくる移動介助・歩行支援とリハビリテーション

演者 柊山 祐歳 先生（株式会社マルベリー）

公開講座・トークセッション

体も心もレベルアップ！未来を切り拓く三つの力

演者 牧谷 宇佐美 先生（一般社団法人Next Creation Japan
NPO法人北海道野球協議会
株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント）

義手と歩む、これまでとこれから～辻沙絵のユーザーストーリー～

演者 辻 沙絵 先生（Össur Japan G.K. セールス&マーケティング
函館市インクルージョン未来アンバサダー）

最新情報は大会ホームページをご確認ください。

会場・交通案内



会場名：札幌市教育文化会館
 郵便番号：060-0001
 所在地：札幌市中央区北1条西13丁目
 電話番号：011-271-5821（代表）



最新情報はこちらから



大会ホームページ



大会Facebook



公式札幌観光情報サイト

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大会スタッフ一同

事務局

大会事務局
 北海道科学大学保健医療学部義肢装具学科
 〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
 TEL：011-688-2409

運営事務局
 株式会社Doshin EC
 〒060-0807 札幌市北区北7条西4丁目8-3 北口ヨシヤビル5F
 TEL：011-299-5910 FAX：011-299-5911
 E-mail：japo2026@ec-mice.com

2026年度 研修セミナーのご案内

2026年度の研修セミナーをご案内いたします。会員の皆様に有益な情報をご提供できるよう、全国研修委員会と研修委員会各支部において鋭意企画・準備に取り組んでおります。皆さまのご参加をお待ちしております。

なお、詳細につきましては、順次ホームページにてご案内いたします。

研修委員会 委員長 広部 俊之

- 全国
タイトル：義肢装具業界のこれまでとこれから～義肢装具士の未来のためにできることは？～
開催日：2026年6月20日(土) 13:00～17:00
形式：オンラインのみ 定員：350名



- 北海道・東北支部
タイトル：第5回、第6回タスク・シフト/シェア研修会～フットケア・足病分野～
eラーニング事前講習：2026年6月頃開始予定
実技研修会：第5回（北海道支部開催）2026年 9月12日(土), 13日(日)
会場：北海道科学大学
第6回（東北支部開催）2026年11月14日(土), 15日(日)
会場：仙台FRIENDS XIX
形式：座学 = VOD(eラーニング事前講習)、実技 = 対面 定員：各20名



第5回 北海道支部



第6回 東北支部

- 東北支部
タイトル：足病医学に基づくインソール作製の理論と実践～義肢装具士スキルのアップデート～
開催日：2026年10月17日(土) 13:00～17:00
形式：対面/オンライン（会場：仙台医健・スポーツ専門学校 第1校舎） 定員：35名



- 東日本支部
タイトル：TSB式下腿義足の再考～断端袋のみで成立させる適合理論と製作技術～
開催日：2027年2月27日(土), 28日(日)
形式：対面のみ（会場：人間総合科学大学 岩槻キャンパス） 定員：10名



- 中部日本支部
タイトル：義肢装具に使用するカーボンの特性と使用例
開催日：2026年12月12日(土) 13:00～17:00
形式：対面のみ（会場：中部リハビリテーション専門学校） 定員：48名



- 西日本支部
タイトル：術後断端管理から学ぶ下腿義足ギプスソケット製作実技セミナー
開催日：2026年10月3日(土) 10:00～16:30
形式：対面のみ（会場：広島国際大学 東広島キャンパス） 定員：10名



- 南日本支部
タイトル：坐骨収納型ソケット実技セミナー ライナー編～正確な知識と技術を習得するために～
開催日：2026年9月19日(土), 20日(日), 21日(月・祝)
形式：対面のみ（会場：熊本総合医療リハビリテーション学院） 定員：8名



脳卒中下肢装具 専門技能コース 実技セミナー実施のお知らせ

——脳卒中専門技能ポイントの“2年先取り” 特例措置、札幌大会で実施決定！——

【最大の見どころ：未修了者も対象！ 異例のポイント遡及措置】

今回の第32回日本義肢装具士協会学術大会（札幌大会）において、脳卒中下肢装具WG主催の体験実技セミナーを実施します。このセミナーでは、受講者の皆様にとって極めて重要な「ポイント付与の特例ルール」が適用されます。通常、専門技能コースのポイントは「標準カリキュラム」修了者のみが対象ですが、本セミナーに限っては、現時点で標準カリキュラムを修了していない方でも、今後2年以内に「脳卒中下肢装具専門技能コース」を受講・修了すれば、今回の参加を「対面講座の受講」とみなし、遡ってポイントを付与いたします。

「まだ標準カリキュラムを受けていないから……」と迷っている方にこそ、この“2年間の貯金”ができる絶好の機会を逃さないでいただきたいのです。

【臨床推論で導く装具設計の「最適解」】

セミナーのテーマは「臨床推論に基づく脳卒中片麻痺の装具設計・適合実践」です。臨床現場で「なんとなく」の経験則やカタログ選定に頼っていませんか？ 本セミナーでは、オンデマンド講義で学んだ「症候障害分析」の理論を、実際のモデル被検者を通してリアルタイムで検証します。「座学で分かったつもりでも、実際の足を見ると迷う」。そんな悩みを、観察、仮説立案、スクリーニング、そして検証という一連のサイクルを通じて解消します。

【ライブ感溢れる100分の実践演習】

当日はスタッフが撮影したモデル歩行を即座に大型スクリーンへ投影し、IC（初期接地）などの重要局面をスロー再生や静止画で徹底分析します。講師の「問いかけ」に対し、映像を確認しながら専用の「設計ワークシート」を埋めていくプロセスは、明日からの臨床で即戦力となるスキルを定着させます。さらに、会場でタオルやウェッジを用いた「スクリーニング（角度調整）」を実演し、その場で歩行がどう変わるかを検証する「トライアンドエラー」を再現します。

【おわりに：早めの準備が未来を変える】

本大会での学びが、認定への近道となり、そして何より患者様の未来を変える確かな一歩となります。なお、開催期間中の札幌市内は宿泊施設の激戦が予想されます。特例ポイントと宿泊先、どちらも「早めの確保」を強くお勧めいたします。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。



実技セミナーメージ

義肢装具士専門技能向上委員会・脳卒中下肢装具WG

委員長 昆 恵介

生涯学習「標準カリキュラム」のご案内

本会では、生涯学習教材としてオンデマンドコンテンツを中心とした「標準カリキュラム」を提供しています。本カリキュラムは、さまざまな医療制度や多職種連携の中で自らの役割を理解し、法律や倫理を踏まえて業務を遂行できる力を養うこと、さらに自ら課題を見つけ、仮説を立て、情報を整理しながら解決へ導く力を身につけることを目的としています。3コースで構成されています（申込期間：4/1～5/31）。

①新人プログラム（5講座〈9動画＋対面1回〉計175分／初回無料）

対象：資格取得後5年以内

内容：義肢装具の歴史、関係法規、職業倫理、支給制度など、専門職としての基礎を学びます。

②一般プログラム臨床基礎コース（7講座〈16動画＋対面1回〉計405分／受講料6,000円）

対象：資格取得6年以上、または新人プログラム修了者

内容：多職種連携やリスクマネジメントなど、臨床を支える基礎力を深めます。

③一般プログラム研究基礎コース（4講座〈15動画〉計560分／受講料6,000円）

対象：資格取得6年以上、または新人プログラム修了者

内容：学会発表や症例報告、論文抄読・投稿の基礎を学びます。自分のペースで熟慮・整理し、繰り返し学べるようVODに特化した構成としています。

動画学習に加え、学術大会では対面講座も実施され、質問や交流ができる貴重な機会です。修了証が発行され、履歴書やキャリア形成にも活用できます。さらに、より高度な学びとして実施されている「専門技能コース」の受講には、本カリキュラム修了が条件となります。

義肢装具士が社会から信頼され続けるためには、学び続ける姿勢が欠かせません。将来のキャリアを見据え、ぜひこの機会に一步を踏み出してください。

生涯学習委員会 委員長 野村 知広



標準カリキュラム
案内ページ

News

令和8年度補装具費支給基準告示改定に向けた団体ヒアリングの提案書の提出

2025年8月8日に、「令和8年度補装具費支給基準告示改定に向けた団体ヒアリングの提案書」として、次の2項目を提出しました。関連記事を、協会HPにて掲載していますので、こちらをご確認ください。

1) 義肢装具士の処遇改善に係る補装具費の引き上げ

2024年度補装具費支給基準の引き上げが義肢装具士の処遇改善につながった否かの調査を、2025年7月に行なったところ、十分には反映されなかったことが分かりました。そこで、処遇改善のために、さらなる補装具費の引き上げを要望しました。

2) 義肢装具士不足のマンパワーを補う3D技術の制度への導入

ここ数年、新卒義肢装具士の求人倍率は約1.9倍（1名に対する求人企業数）で、義肢装具士の供給不足が続いています。将来的に義肢・装具の安定供給に支障を来す恐れが出てきました。そこでマンパワー不足を補う対策の1つとして3D技術の制度導入を要望しました。

義肢装具等支給制度対策委員会 委員長 石原 栄治

厚生労働大臣への要望書の提出



2025年12月16日、本会を含めた補装具関連7団体協議会は、原材料等価格高騰による補装具費支給基準の見直しを求める要望書を、上野賢一郎厚生労働大臣に提出しました。

5月27日は「義肢装具の日」

義肢装具が生み出す
人とカラダと社会の
インターフェイス

義肢装具に係る団体は、義肢装具について
広く社会に知っていただくことを目的に、
義肢装具士法が成立された5月27日を
「義肢装具の日」としました。

義肢装具の日

義肢装具士法が1987年5月27日、第108回通常国会で可決・成立して以来、2026年3月末までに6,610名の義肢装具士国家試験合格者が誕生しました。国民の保健、医療、福祉の維持および向上のため、義肢・装具をはじめとする福祉用具等を提供し、ケガをされた方々や疾患を抱える方々の治療、また障がいのある方々の日常生活や就労・就学を支え、QOL（生活の質）の向上を担ってまいりました。

このたび、本会、一般社団法人日本義肢協会及び日本義肢装具教育者連絡協議会の3団体は、国民の皆様にも、義肢・装具ならびに義肢装具士を広く知っていただくために、毎年5月27日を「義肢装具の日」と定め、次世代の人材確保と育成、義肢・装具及び福祉用具の安定供給、研究開発等に努めてまいります。

会長 東江 由起夫

会員数(2026.3.31現在)

正会員：2,195名
購読会員：54名
賛助会員：33名
学生会員：627名

会報誌 JAPO通信 第16号

発行日：2026年5月1日

発行元：公益社団法人日本義肢装具士協会

発行責任者：東江 由起夫

編集スタッフ：広報委員会(理事：植松 茂也)

委員長：大塚 博

副委員長：藤枝 温子

委員：一瀬 優月、福吉 萌